１０番　松本ひろかずです。
議案７６号　春日部市立看護専門学校条例の一部改正について、日本共産党議員団を代表して、反対の立場から討論を行います。

　春日部市立看護専門学校は、昭和４９年４月　市立病院附属高等看護学院として、２年課程、定員１学年２０名、総定員４０名で開設しました。
　平成１６年４月から、３年課程に変更し、１学年３０名、総定員９０名に拡充しました。
　平成１７年４月に、病院附属高等看護学院からが春日部市立看護専門学校となり、平成２１年４月には、１学年４０名、総定員１２０名に増やし、市立病院の看護師不足解消にたいへん大きな役割を果たしてきました。
　春日部市立看護専門学校は、教育理念として１番目に「埼玉県東部地域住民の健康と福祉に寄与する人材を育成することを目指す。」ことを掲げています。
　そして、教育目的として、
　豊かな人間性を養い、安全な看護実践に必要な知識・技術・態度を主体的に学び、地域・社会に貢献できる看護実践者を育成する。
としています。
　この議案は、
・市立医療センターの看護師不足が解消された。
・県内の１８歳人口が減少する。
・大学の看護学部や看護専門学校が新設され、定員が増えている。
　という理由で、平成３２年度から、１学年３０名、総定員９０名に減らすというものです。そして、今後は、少人数による質の高い看護師の育成をめざすとしています。
　県内には、市立の看護専門学校は、さいたま市、川口市、そして春日部市の３つしかありません。
　さいたま市立高等看護学院は、昭和５２年４月に浦和市立高等看護学院として開校し、平成１３年に名称を変更しさいたま市立となり、平成２８年４月から、１学年４０名を６０名に、総定員１２０名を１８０名に増やし、昨年３月には新校舎を建設し、学ぶ環境を整備しました。安価な学生寮もあります。
　川口市立看護専門学校は、昭和４４年４月に開校。平成６年に新校舎を建設し、平成１８年には運動場を整備しました。現在は１学年４０名、総定員１２０名となっています。
　いずれも、近年、校舎などを新設、整備し拡充を図っています。
　春日部市立看護専門学校はたいへん評判の良い学校で、入試倍

率は、
２９年度２．８倍、３０年度２．６倍と２倍を超えています。
　卒業生からは、
・学費が安く、駅から近く立地条件は最高で、先生方の学習体制もしっか　りしています。
・学習は大変だけど、やりがいがあって毎日充実しています。
・同じ夢をもつ仲間達なので連帯感がとても強く、国家試験の合格率も毎　年１００％と高い合格率を誇っています。
など、高く評価する声が多く聞かれます。
しかし、
　「体育館が無くて学校全体が狭い。体育は近所の運動場に移動して行う。全員同時に着替えられない。演習室や在宅室、ホール、機材は最低限そろっているので、こだわりが無ければ大丈夫です。」という指摘もあります。
　今回、市立医療センターの看護師不足が解消されたから定員を減らすというのは、あまりにも身勝手と言わざるをえません。
　全国的に看護師不足は慢性化しており、とりわけ埼玉県は人口１０万人あたりの看護師数が最も少ない県で、深刻な事態となっています。
　今後、高齢化が進み、医師も看護師もますます不足します。
　こういうときに、定数を縮小することは、あまりにも時代の要請に逆行したものと言わざるをえません。
　春日部市立看護専門学校は、「埼玉県東部地域住民の健康と福祉に寄与する人材を育成することを目指す。」と教育理念の一番目に掲げているように、地域の医療機関の看護師養成という重要な役割をになっているのです。市立医療センターだけの看護専門学校でないということを強調しておきたいと思います。
　むしろ、さいたま市や川口市のように、狭隘な学校施設を移転・新築し、運動場も確保するなど、学習環境を整備し、定員を増やして少人数学級で、教育目的に掲げている「地域・社会に貢献できる看護実践者を育成する。」ために、更に充実することこそ必要です。
　経済的に苦しい人が安い学費でしっかり学べる、地域に貢献できる教育機関としての高い価値が、市立看護専門学校にはあるのです。
　市立医療センターは市民の宝であり、市立看護専門学校は春日部市の誇りうる教育機関です。
　市民は「医療が充実したまち」を強く望んでいます。定員を減らすというこの議案は、市民の願いに背くものです。

　以上指摘して、反対討論を終わります。